

NPO 日住協 50周年、記念すべき年を迎え

NPO法人日本住宅管理組合協議会（日住協）は、この秋、創立50周年を迎えます。全国のマンション管理組合団体の魁（さきがけ）として艇生、管理組合の皆様とともに時を刻んできました。山あり谷ありの歴史でしたが、半世紀を迎え感慨もひとしおです。10月18日（金）~~8~~いました帝国ホテル（東京・千代田区）で会員の皆様を迎え、記念式典を挙げる予定ですが、式典のほか、マンション問題に詳しい識者に、マンションの今日的課題について記念講演をお願いするほか、シンポジウムを予定しています。日住協は昨年より管理運営をはじめ管理組合活動の基本軸に据えています自立管理の重要性を確認する機会ともしたいと考えています。

50周年を迎えるにあたって、昨年当初から50周年準備委委員会を設け、会長、理事長、理事を中心に、役員全員で準備を進めています。周年記念事業は、祝祭中心になりがちですが、管理組合の自立を確認する機会としてとらえ、議論してきました。管理組合にとって費用のかかる大規模修繕を管理会社にお任せの管理組合、高齢者が増え、益々その傾向が顕著です。

例えば、清掃や窓口業務、会計業務を管理会社に委託したとしても、10数年に一度の大規模修繕の企画立案、設計コンサル、施工業者の選定を管理組合が自らかわる、そうした自立性が求められる、というのが日住協の主張です。自らの財産は自ら守るということです。

日住協より先に50周年を迎えた団地、マンションもいくつか出てきました。例えば、稲毛海岸3丁目団地（千葉市、768戸）は昨年7月に50周年を迎え、記念式典を開きました。4年前、11億円もの費用をかけた外壁改修、玄関扉交換などの大規模修繕も住民自身が企画、立案して決めました。まさに自立した管理組合といえます。

別に大変なことではない、自分たちのことは自分たちで決める、ということですね、と久保田博理事長は、さらりと言っているのけています。

また、久保田理事長は、管理組合の理事の前に、長年自治会長を務め、様々な意見、立場を持つ自治会をまとめてきた経験から、住民の合意形成づくりに心を砕く懐の深さを持ち合わせていることも、指摘しておきたいところです。

自立管理は、自分たちのことは自分たちで決めてゆく、ごく当たり前のことではないでしょうか。50周年は、そのことを確認する機会としたい。

（本稿は集合住宅管理新聞 Amenity ‘19年1月5日第436号より借用しました。）